

平成 23 年度第 1 回生きがい・介護予防分科会 会議録

1 開催日時

平成 23 年 5 月 26 日 (木) 18:30 ~ 20:00

2 開催場所

北九州市役所 9 階 91 会議室

3 出席者等

(1) 委員

井手委員、江口委員、桑原委員、座小田委員、田中委員、長野委員、橋元委員、古市委員、山崎委員、力久委員

欠席者 伊藤委員、永田委員

(2) 事務局

介護保険・健康づくり担当部長、健康推進課長、高齢者支援課長、健康づくり担当課長、健康づくりセンター担当課長、介護保険課長、計画調整担当課長、精神保健福祉センター所長、健康推進課健康づくり係長、高齢者支援課いきがい係長 ほか

4 会議内容

(1) 分科会長・副分科会長の選出

(2) 議事

1. 生きがい・介護予防分科会について
2. 生きがい・介護予防施策の実施状況について

(3) 報告事項

1. 平成 22 年度北九州市高齢者等実態調査の調査結果について

5 会議経過及び発言内容

(1) 分科会長・副分科会長の選出

委員の互選により、分科会長に山崎委員を、副分科会長に橋元委員を選出

(2) 議事

1. 生きがい・介護予防分科会について・・・資料 1

分科会長：ただいまの事務局からの説明について、ご意見・ご質問等はないか。

(意見・質問なし)

2. 生きがい・介護予防施策の実施状況について・・・資料 2

分科会長：ただいまの事務局からの説明について、ご意見・ご質問等はないか。

委員：地域支援事業実施要綱の改正の際、地域包括支援センターのケアプラン作成業務が煩雑なため必要な場合のみ作成すればよいとなったが、ケアプランを作成する際の例や基準があれば伺いたい。

健康づくり担当課長：今年3月、厚生労働省からケアプラン作成の必要性を判定するアセスメントシートが参考提示され、市では現在、このシートを試行しているところである。一方、ケアプランは不要でもケアマネジメントや評価はこれまで通り必要なことから、ケアプランなしで評価が可能かといった点についても今後検討していきたい。

委員：要綱改正で二次予防事業対象者については市町村が適切な名前をつけてよいとなったが、北九州市の対応を伺いたい。

健康づくり担当課長：従来の「特定高齢者」という名称を要綱改正によって「二次予防事業対象者」に変更し、自治体ごとに通称をつけてよいとした。しかし、共通認識が持てる名称が当てはまりにくく、北九州市では現時点では要綱どおりの名称を使用しているところである。もし適当な名称があればぜひご教示いただきたい。

分科会長：健康づくり・介護予防と生きがいづくりは、連携させることで非常に効果が上がると思う。例えばきたきゅう体操を元気高齢者がインストラクターとなってボランティアで広めていけば、一気に地域に広がるのではないか。そういう意味で、きたきゅう体操やひまわりタイチーの普及がどのように行われているか伺いたい。

健康推進課長：現在、地域リーダーを育成するために健康運動指導士や太極拳の専門家に人材育成をしていただいているところである。一方、体験会や教室も開催するなど、いろいろな形での取り組みを進めている。

委員：全く知らなかったが、それはどれくらいの人数で行われているものか。

健康推進課長：ひまわりタイチーの普及員養成は、今年度で2年目になる。昨年度は60名ほどの参加があり、今年度もほぼ同じ人数で実施しているところである。

委員：募集はどのような方法で行っているか知りたい。

健康推進課長：基本的には市政だよりで行っている。

分科会長：以前、小さなグループできたきゅう体操をやったことがあるが、もし指導者がいればもっとやりやすいように感じた。実施状況はわかったが、先ほど委員からご指摘のあったようにインフォメーションがいまひとつ上手く届いていない気がする。

委員：きたきゅう体操とひまわりタイチーはいずれも日常生活で使う動作を組み入れてある。どちらも指導者なしでもできる内容になっているが、その人の身体状況に合わせて行うことが大切なので、最初は指導者のもとにやっていただくのがいいと思う。

生きがい施策は事業によって「年長者」を使ったり「シルバー」「高齢者」「老人」を使ったりしているが、ネーミングはもう少し統一できないか。「年長者」はいくつからが年長者なのかなど、こういった点も整理すべき時期かと思う。

高齢者支援課長：市の事業もあれば民間団体がされている事業もあり、民間団体の事業については行政から指導できないため名称変更は難しいかと思う。事業を行うにあたって、「高齢者」とついた事業は対象者は65歳以上、「年長者」とついた事業は基本的には60歳以上と整理をし、使い分けて実施してきた経緯がある。ネーミングについては確かにわかりにくいというご意見もあるので、今後工夫をしていきたい。

委員：きたきゅう体操は、高知市のいきいき百歳体操を参考に作ったとあるが、高知市では高齢者が歩いていける範囲の集会所に集まって体操をしていると聞いたことがある。きたきゅう体操やひまわりタイチーは家庭で自主的にすることを考えて作ったものか、それとも高齢者が集まって行うことを考えたものか、伺いたい。

健康推進課長：両面あると考えている。自分自身の介護予防・健康づくりのために自宅でもできた方がいいが、集まって行うことによって閉じこもり防止や活動の継続性、仲間づくりといったことにもつながる。地域リーダーをつくることによって、地域の集会所などでこういった取り組みが広がっていけばと思う。

委員：実行できればいいと思う。

委員：普及には市民センターの利用が非常に大事だと思う。穴生学舎にも学習グループなどがあるので、例えば10時か3時の時間帯に体操の放送を流すとか、そういうことでもっと普及できるのではないか。

分科会長：市民センターはもちろんだが、認知症のサポート活動をやっているボランティア団体やNPO団体、社会福祉協議会のいきいきサロンなどに資料を配り、指導に出向くなどすれば、需要があるのではないか。介護予防にもいくつかの事業があるので、例えば簡単な料理教室をするなどして地域の中に入っていく工夫があると、介護予防の一次予防と生きがいづくりがうまく連携して進むのではないかと思う。

委員：生きがいの項目のひとつとして、頑固な人と話すときの方法、高齢者自身が周囲を受け入れる、そういうことも必要ではないかと思う。

委員：「二次予防事業の訪問等による介護予防支援事業」に参加した人の経年変化、例えば入院した、治療しているなどがわかれば教えてほしい。また、一次予防事業の「高齢者尿失禁予防事業」は実人数38人だが、掘り起こせばかなりいるのでやり方次第で38どころか380にもなりえる、まだまだ未開発の部分ではないかと思う。最後に、介護予防健診はどの項目に反映されているか。

健康推進課長：資料には直接的に出ていないが、事業としては「介護予防のための生活機能評価実施事業」になる。

健康づくり担当課長：訪問型の介護予防事業を利用された方のその後の経過について、介護予防事業の評価は要支援・要介護にならなかったかどうか、本人のQOLなどで行っているため、入院に至ったケースなどの詳細な把握は現在のところ行っていない。

(3) 報告事項

1. 平成22年度北九州市高齢者等実態調査の調査結果について・・・資料3

分科会長：ただいまの事務局からの説明について、ご意見・ご質問等はないか。

委員：仕事に関することは趣味やレジャーとほぼ変わらないくらいニーズがある。生きがい施策の中にはシルバー人材センターなどが入っているが、何らかの形で計画の中に反映できたら社会参加にさらに広がりができると思う。

分科会長：夢追塾でも社会的起業のサポートを行っており、すでいくつかの活動も立ち上がっている。夢追塾の対象者は高齢者だが、そういう形での生きがいづくりも大事だと感じる。今のような時代に普通の仕事や就労は高齢者には難しいが、高齢者にできる仕事を探している人は確かに多い。

委員：在宅で介護する家族への支援はある程度サービス量があるのではと思っていたが、在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実を半数近くの人が望んでいるという結果を見て驚いた。介護で苦労している家族の支援について、リスクマネジメント、ケアマネージャーや地域包括支援センターの支援、サインを見逃さないための研修なども必要と感じる。

計画調整担当課長：家族の支援は調査結果を見ても非常に要望が強いテーマである。これはいろいろな分科会にわたるテーマであるので、各分科会で議論していただき、また全体会の中でも大きなテーマとして取り上げられることになると思う。

委員：在宅の家族支援については、レスパイトという言葉を広めてほしい。

分科会長：小倉北区の中学校にある、市民も利用できる温水プールに行くと、最初のうちは元気な高齢者が多かったが、最近は医者のお勧めで介護予防のためにプールを使っている人が多い。こういった介護予防に使える公共施設はどの程度あるか伺いたい。

健康推進課長：通年型の、ある程度水の温度管理が出来ている施設は数ヶ所程度、屋外プールを含めれば各区最低1ヶ所ずつは整備されていると思う。

分科会長：今、高齢者の間ではグラウンドゴルフが非常に盛んだが、グラウンドゴルフクラブへの道具の貸し出し・支援などは行われているか。

いきがい係長：例えば穴生ドームでは、グラウンドゴルフに対する指導や道具の貸し出しなどを行っている。また、グラウンドゴルフの全市的な大会、団体に対しての助成なども行って

いる。

分科会長：市民として見ていると、少しずつ市の施策の中で介護予防や生きがいに関するところが育ってきている、いい効果が出ていると感じる。この分科会ではそういうことにも目配りしながら議論していきたい。最後に、事務局から伝達事項があればお願いします。

健康づくり係長：次回分科会は7月頃の開催を予定したい。

分科会長：委員会をこれで閉会とする。